

2013年10月30日 全5頁

Indicators Update

9月鉱工業生産

市場予想からは下振れするも、緩やかな増加基調継続

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年9月の生産指数は、前月比+1.5%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス（同+1.8%）を下回ったものの、3ヶ月移動平均値は2ヶ月ぶりの上昇となっており、生産は緩やかな増加基調にあるという判断に変更はない。
- 9月の生産を業種別に見ると、全15業種中、9業種が前月から上昇、6業種が低下となった。上昇した業種を見ると、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業など加工組立業種の増加が生産全体を押し上げた。
- 製造工業生産予測調査では、2013年10月の生産計画は前月比+4.7%、11月は同▲1.2%となった。10月は非常に高い伸びを見込んでいるが、はん用・生産用・業務用機械工業（前月比+15.8%）、情報通信機械工業（同+17.3%）の大幅な増産計画が主な増加要因となっている。これらの業種は、前月も大幅な増加を見込んでいたにもかかわらず、実際の生産は大きく下振れした。納期が後ずれした影響も考えられるが、やや割り引いてみる必要があるだろう。
- 先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。生産と連動性が高い輸出数量は、ASEANの景気減速によって、アジア向けを中心にこのところ弱含んでいるが、円安の効果や米国の景気拡大によって再び増加傾向に復する見込みであり、生産を牽引すると見込んでいる。また、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって耐久財を中心に個人消費が年度末にかけて加速する公算が大きいこと、公共投資が引き続き高水準で推移するとみられることから、内需の増加も生産を押し上げるだろう。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年		2013年								
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
鉱工業生産	1.4	▲0.6	0.9	0.1	0.9	1.9	▲3.1	3.4	▲0.9	1.5	
コンセンサス										1.8	
DIR予想										3.7	
生産者出荷	3.7	1.2	1.8	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.2	2.0	▲0.1	1.6	
生産者在庫	▲1.3	▲1.6	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0	1.6	▲0.2	▲0.2	
生産者在庫率	0.0	▲3.8	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1	5.9	▲0.5	1.8	▲2.0	

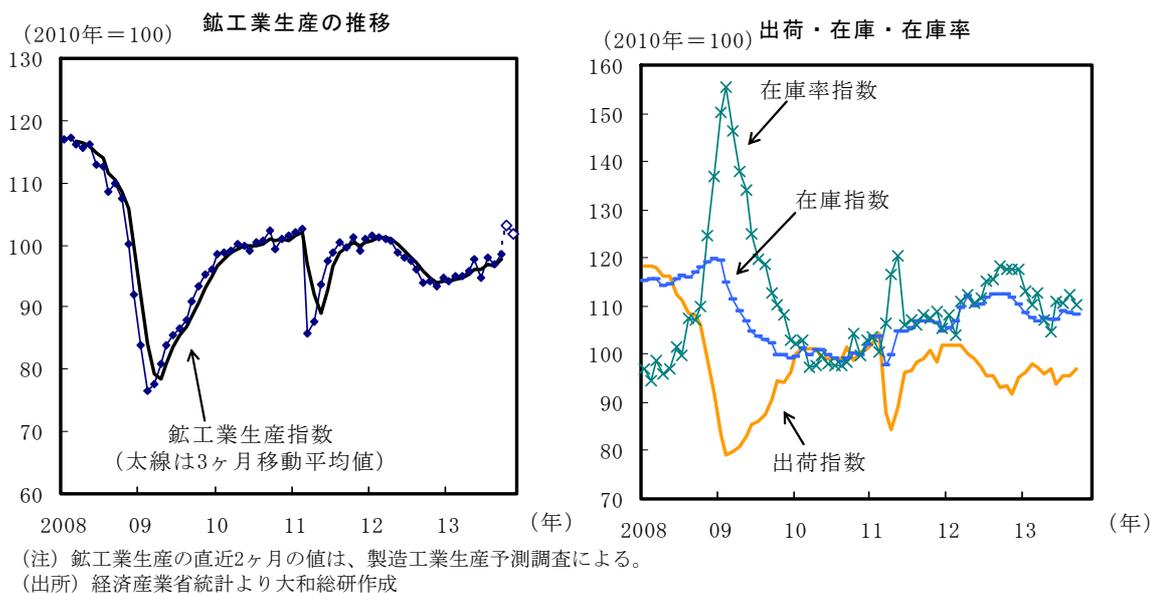
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

9月の生産指数は2ヶ月ぶりの上昇

2013年9月の生産指数は、前月比+1.5%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス(同+1.8%)を下回ったものの、3ヶ月移動平均値は2ヶ月ぶりの上昇となっており、生産は緩やかな増加基調にあるという判断に変更はない。出荷指数は前月比+1.6%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.2%と2ヶ月連続の低下となったことから、在庫率指数は同▲2.0%の低下となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移



加工組立業種が好調

9月の生産を業種別に見ると、全15業種中、9業種が前月から上昇、6業種が低下となった。上昇した業種を見ると、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業など加工組立業種の増加が生産全体を押し上げた。

輸送機械工業は前月比+3.9%と、2ヶ月ぶりの増加となった。好調な国内自動車販売が生産の増加に寄与した。電子部品・デバイス工業は同+4.7%と、2ヶ月ぶりの増加となった。品目別では、「アクティブ型液晶素子(中・小型)」の生産が増加しており、スマートフォン、タブレット端末向け部品が好調だった模様。情報通信機械工業は同+4.9%と、2ヶ月ぶりの増加となった。「外部記憶装置」、「はん用コンピュータ」が主な増加要因となったが、金融機関向けの大型案件が押し上げに寄与しており、NISAに向けたシステム改修が押し上げに寄与したとみられる。

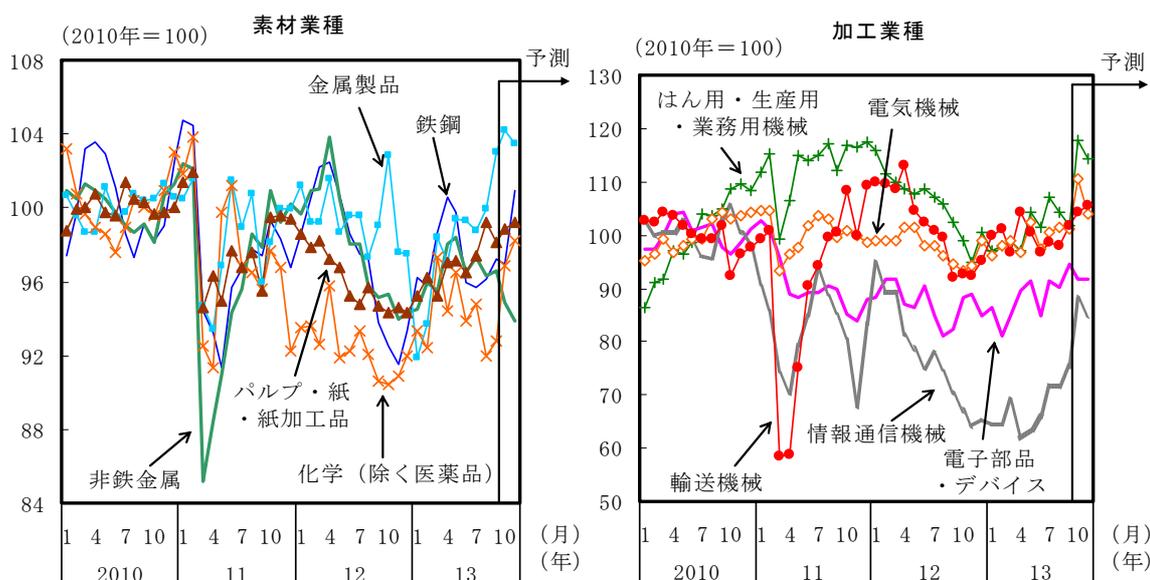
一方、低下した業種に関して見ると、前月の製造工業生産予測調査で大幅な上昇が見込まれていた、はん用・生産用・業務用機械工業が予測に反して低下しており、市場予想からの下振れ要因となったとみられる。

なお、設備投資の一致指標である資本財出荷を見ると、7-9 月期は前期比+1.2%と 2 四半期ぶりの上昇となった。4-6 月期に増加に転じた GDP ベースの設備投資は、7-9 月期は 2 四半期連続の増加となる可能性が高い。

製造工業生産予測調査では、10 月に高い伸びを見込む

製造工業生産予測調査では、2013 年 10 月の生産計画は前月比+4.7%、11 月は同▲1.2%となった。10 月は非常に高い伸びを見込んでいるが、はん用・生産用・業務用機械工業（前月比+15.8%）、情報通信機械工業（同+17.3%）の大幅な増産計画が主な増加要因となっている。これらの業種は、前月も大幅な増加を見込んでいたにもかかわらず、実際の生産は大きく下振れた。納期が後ずれした影響も考えられるが、やや割り引いてみる必要があるだろう。11 月については、10 月に大幅な増加を見込む業種の反動減が主な押し下げ要因となる見込み。

主要業種の生産推移

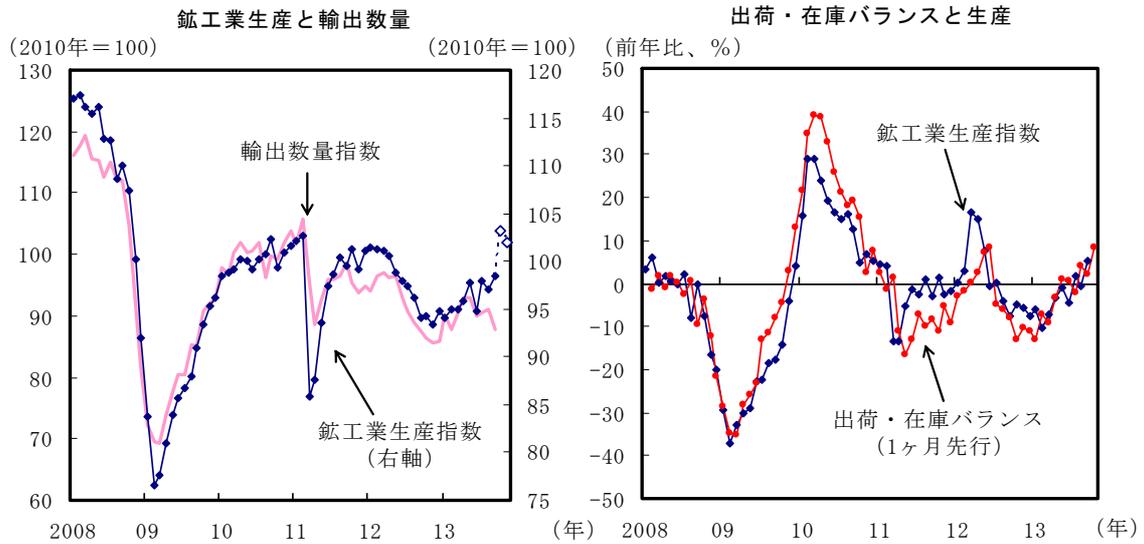


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

輸出の増加に加え、内需も今後加速

先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。生産と連動性が高い輸出数量は、ASEAN の景気減速によって、アジア向けを中心にこのところ弱含んでいるが、円安の効果や米国の景気拡大によって再び増加傾向に復する見込みであり、生産を牽引すると見込んでいる。また、2014 年 4 月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって耐久財を中心に個人消費が年度末にかけて加速する公算が大きいこと、公共投資が引き続き高水準で推移するとみられることから、内需の増加も生産を押し上げるだろう。

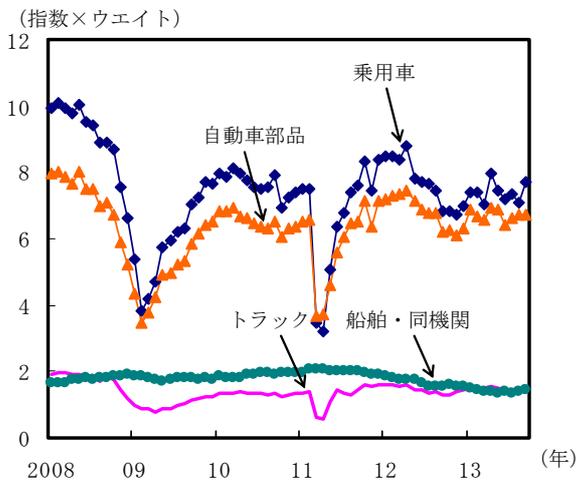
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



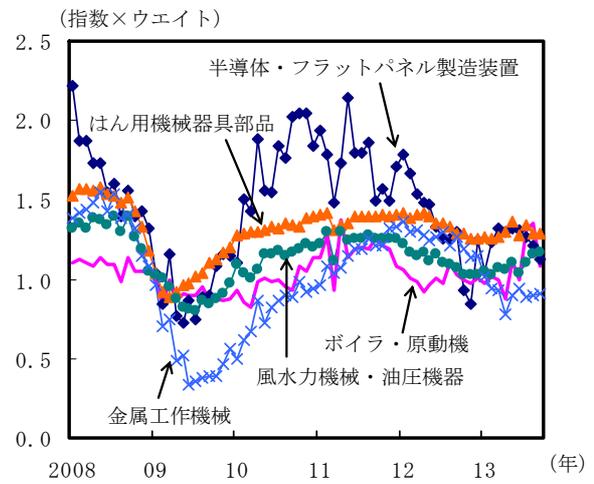
(注) 鋁工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

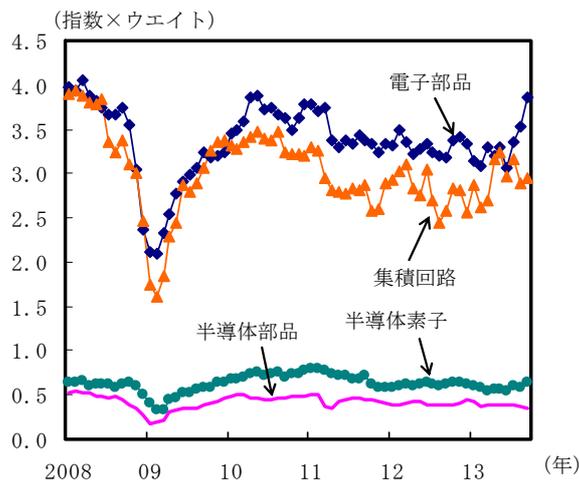
輸送用機械



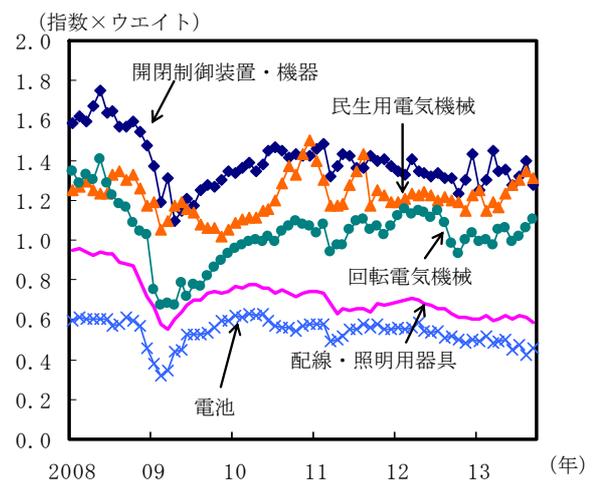
はん用・生産用・業務用機械



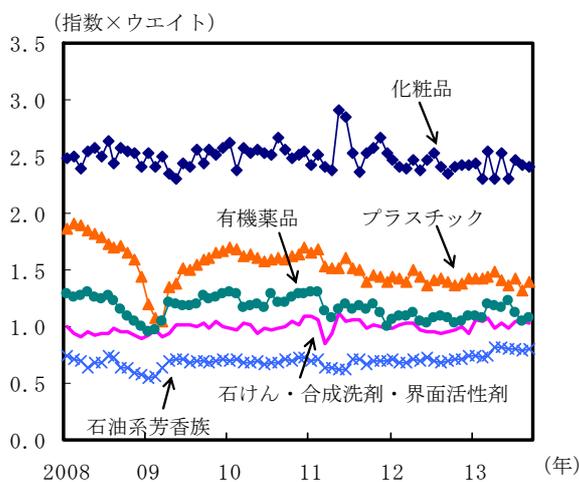
電子部品・デバイス



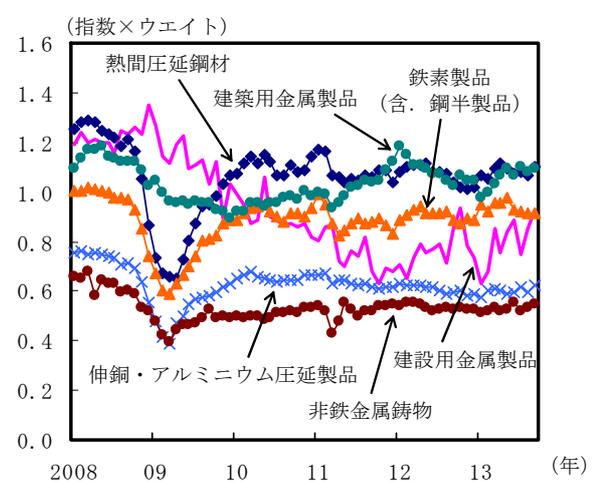
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成